

## 論文内容の要旨

報告番号	空欄	氏名	細川 幸成
Follow-up study of unilateral renal function after nephrectomy assessed by glomerular filtration rate per functional renal volume			
(和訳) 機能的腎体積あたりの腎機能の影響を考慮した腎摘除後の残存腎機能の検討			

### 論文内容の要旨

- 【目的】**腎摘除術は腎癌・腎盂尿管癌の患者、腎移植のドナーに対して施行される標準的な手技である。しかし、予測以上に術後腎機能の悪化を認める症例は少なからず存在し、術後腎機能の悪化を予測する要因を同定する必要がある。われわれは、3D 断層画像診断ソフトを利用して機能的腎体積(FRV)を計測し、種々の腎手術前後における腎機能の推移を報告してきた。その検討の中で、FRVはeGFRに相関することが証明されたが、同時に同じFRVであってもeGFRに大きな差がある症例も存在することが明らかになった。今回、術前のeGFR/FRVに影響を与える因子、およびeGFR/FRVが術後腎機能の推移に与える影響について検討を行った。
- 【対象と方法】**2006年～2008年の間に、奈良県立医科大学および関連施設においてCTによる画像診断を受けた後、腎摘除術を受けた83例について、3D断層画像診断ソフトを利用してFRVを計測した。まず、各症例の術前のeGFR、eGFR/FRVを算出し、年齢・性差・BMI・高血圧の有無・高脂血症の有無・糖尿病の有無の各項目とeGFR/FRVの関係について検討した。次に、術後経過観察を行い、術後3年後のeGFRを算出し、これに影響する因子について検討を行った。
- 【結果】**83例の年齢の中央値は60歳、術前のeGFRの中央値は79.0 mL/min/1.73m<sup>2</sup>、FRVの中央値は310.15cm<sup>3</sup>、eGFR/FRVの中央値は0.24であった。腎摘除を行う理由の内訳は、45例が腎癌、9例が上部尿路上皮癌、29例が腎移植のドナーであった。術前のeGFR/FRVに影響を与える因子として多変量解析を行った結果、蛋白尿の有無(p=0.042)のみが有意な因子であった。また、術後3年後までに10例が癌死、17例がlost follow-upとなっていた。経過観察が可能であった56例の術後3年後のeGFRは中央値で50.1 mL/min/1.73m<sup>2</sup>。術後3年後のeGFRに影響を与える因子は多変量解析で、年齢(p=0.001)、eGFR/FRV(p<0.001)が有意な因子であった。
- 【結論】**術前eGFR/FRVの違いは、蛋白尿の有無に影響された。術前eGFR/FRVは、術後の長期腎機能を予測する有用な因子である。術前eGFR/FRVが低値である症例は、腎摘後の経過観察中に慢性腎臓病(CKD)の発症に留意するべきである。